

# 2020年度決算概要 および2021年度業績予想 「中期経営計画2023」

2021/5/10

 住友重機械工業株式会社  
社長 下村 真司

## INDEX

01

**2020年度決算概要  
および2021年度業績予想**

02

**「中期経営計画2023」**

# 01

## 2020年度決算概要 および2021年度業績予想

# 01 2020年度 業績サマリー

単位：億円

## ■ ポイント

### (1) 受注高

- ・環境プラントを除く全ての部門で前期比減少。
- ・特に精密機械で減少幅が大きかった。
- ・コロナ禍による経済活動の停滞や機械需要の落ち込みによる。

### (2) 売上高

- ・機械コンポーネント、精密機械、建設機械部門で前期比減収。
- ・特に建設機械で減収幅が大きかった。
- ・コロナ禍による需要の落ち込みで、リードタイムの短い量産系機種が特に大きな影響を受けた。

### (3) 営業利益

- ・機械コンポーネント、建設機械、船舶の部門で前期比減益。

### (4) 特別損益

- ・船舶部門他での減損損失を計上。

### (5) 配当

- ・2021年1月時点の予想54円から11円上方修正し、1株当たり65円の配当を実施。

	2019	2020	増減
受注高	8,262	8,139	△124
売上高	8,645	8,491	△154
営業利益	568	513	△55
営業利益率	6.6%	6.0%	△0.5%
経常利益	527	495	△31
経常利益率	6.1%	5.8%	△0.3%
特別損益	-	△58	△58
税金等調整前 当期純利益	527	438	△89
親会社株主純利益	328	268	△60
親会社株主純利益率	3.8%	3.1%	△0.6%
1株当たり配当	91円	65円	△26円
為替レート(ドル)	¥108	¥106	△¥2

# 01 セグメント別営業利益

単位：億円

## ■ 対前期比較

<機械コンポーネント>  
コロナ禍による需要の落ち込みで売上が減少し減益。

<精密機械>  
プラスチック加工機械は、売上減少も機種構成の変化で増益。  
半導体関連は、堅調で増益。

<建設機械>  
油圧ショベルは、売上減少に加え、品質コストの発生もあり大幅減益。  
建設用クレーンは、売上減少により減益。

<産業機械>  
主に運搬機械の売上増加により増益。

<船舶>  
船舶市況低迷で営業損失が継続。

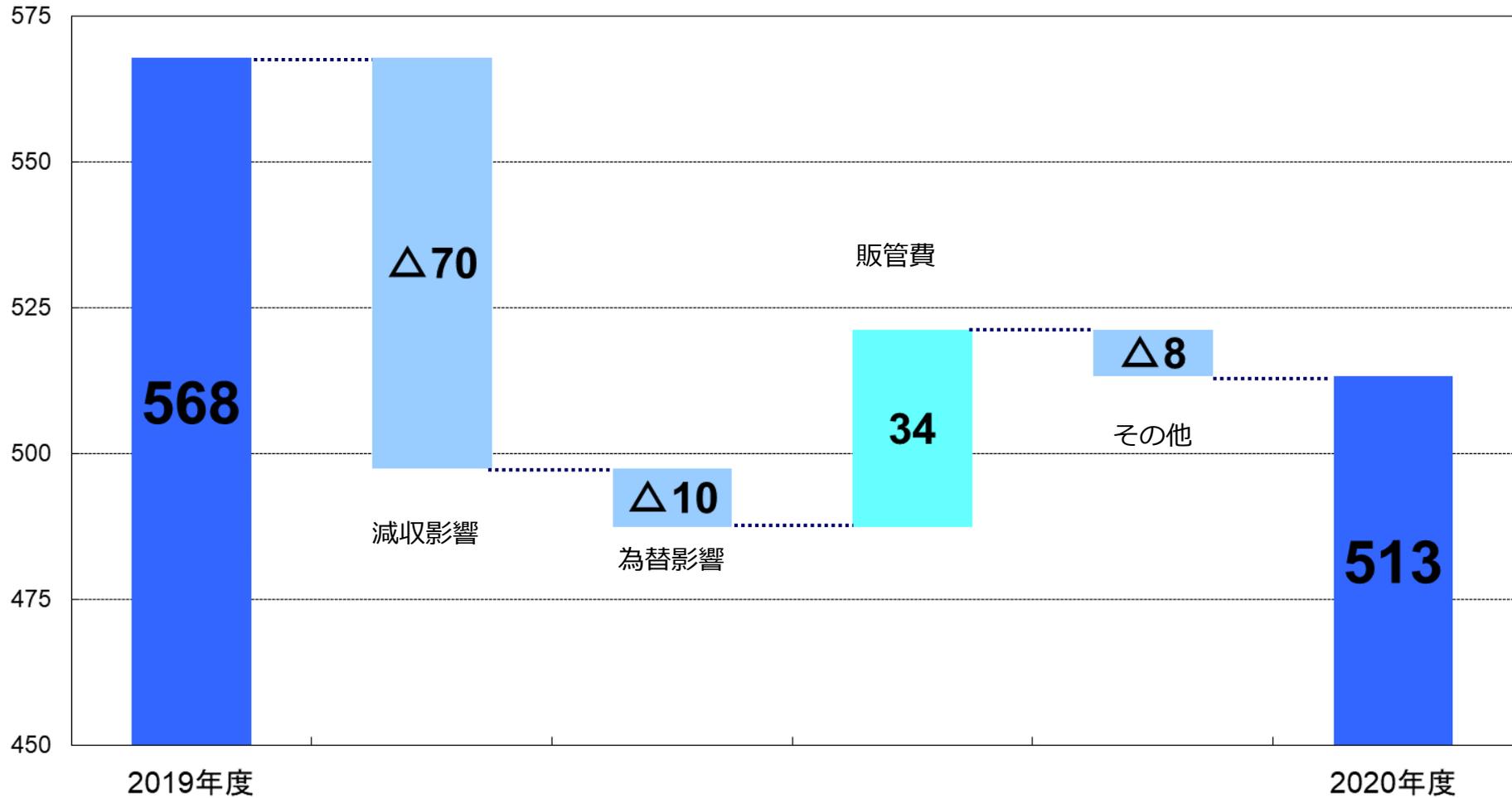
<環境・プラント>  
エネルギープラント、水処理プラントの売上増加により増益。

	2019	2020	増減
機械コンポーネント	55	22	△33
精密機械	149	171	22
建設機械	171	61	△110
産業機械	71	85	14
船舶	△21	△27	△6
環境・プラント	119	181	62
その他	24	21	△3
計	568	513	△55

## 01

## 営業利益増減分析

単位：億円



## 01

## 連結貸借対照表

単位：億円

	2020/3末	2021/3末	増減		2020/3末	2021/3末	増減
<b>流動資産</b>	<b>5,928</b>	<b>6,136</b>	<b>208</b>	<b>負債</b>	<b>5,185</b>	<b>5,258</b>	<b>73</b>
現預金	871	995	125	買掛債務	1,585	1,603	18
売上債権	2,714	2,829	115	有利子負債	1,247	1,244	△2
たな卸資産	2,010	2,002	△8	その他	2,353	2,411	58
その他	333	310	△23	<b>純資産</b>	<b>4,776</b>	<b>5,049</b>	<b>273</b>
<b>固定資産</b>	<b>4,033</b>	<b>4,171</b>	<b>137</b>	株主資本	4,231	4,462	231
有形固定資産	2,681	2,758	77	その他の包括利益 累計額	414	445	32
無形固定資産	741	768	27	非支配株主持分	132	142	10
投資その他の資産	612	645	33	<b>合計</b>	<b>9,961</b>	<b>10,307</b>	<b>346</b>
<b>合計</b>	<b>9,961</b>	<b>10,307</b>	<b>346</b>	ネット有利子負債比率	3.8%	2.4%	△1.4%
				自己資本比率	46.6%	47.6%	1.0%

# 01 連結キャッシュ・フロー計算書

■ 運転資本負担が減少し、営業キャッシュ・フローが改善

■ 高水準の投資を継続するもフリー・キャッシュ・フローは204億円のプラス

単位：億円

区 分	2019	2020	増減
<b>営業活動</b>	<b>363</b>	<b>641</b>	<b>279</b>
税金等調整前当期純利益	527	438	△89
減価償却費	279	297	18
運転資本	△277	△116	161
その他（税金等）	△166	22	188
<b>投資活動</b>	<b>△578</b>	<b>△437</b>	<b>140</b>
（フリーキャッシュ・フロー）	<b>△215</b>	<b>204</b>	<b>419</b>
<b>財務活動</b>	<b>360</b>	<b>△80</b>	<b>△439</b>
<b>現金・現金同等物増減</b>	<b>139</b>	<b>117</b>	<b>△21</b>
現金・現金同等物期末残高	836	962	126

# 01 2021年度業績予想

- 前年度比増収、利益は横ばい。
- 2021年度の年間配当予想は70円、配当性向32%とする。

単位：億円

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度予想
受注高	8,262	8,139	8,800
売上高	8,645	8,491	8,700
営業利益	568	513	500
営業利益率	6.6%	6.0%	5.7%
経常利益	527	495	460
経常利益率	6.1%	5.8%	5.3%
特別損益	—	△58	△20
親会社株主純利益	328	268	270
親会社株主利益率	3.8%	3.1%	3.1%
1株当たり配当	91円	65円	70円
配当性向	34.0%	29.8%	31.8%
ROIC(税引後)	7.3%	6.1%	5.6%
【参考】ROE	7.1%	5.6%	5.4%
織込レート(ドル)	¥108 (実績)	¥106 (実績)	¥105

# 01 決算期変更について

**2022年6月開催予定の第126期定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されることを条件として、決算期（事業年度の末日）の変更を行う。**

- **決算期を統一することで、グローバル経営基盤を強化するとともに、統一会計期間でのタイムリーな業績把握開示の実現を図る。**
- **現在、毎年3月31日である期末日を、毎年12月31日に変更。**
- **決算期変更の経過期間となる2022年度は、以下を予定。**
  - **2022年4月1日から2022年12月31日までの9ヶ月決算。**
  - **業績見通しは、2022年3月期決算(2022年5月に開示予定)にて公表。**



# 旧セグメント別実績まとめ（受注・売上・営業利益）

単位：億円

	2019年度通期(19.4-20.3)				2020年度通期(20.4-21.3)				2021年度通期(21.4-22.3)(予想)			
	受注高	売上高	営業利益	営業利益率	受注高	売上高	営業利益	営業利益率	受注高	売上高	営業利益	営業利益率
機械コンポーネント	1,265	1,305	55	4.2%	1,241	1,222	22	1.8%	1,450	1,360	65	4.8%
プラスチック加工機械	834	915			885	836			930	920		
精密その他	1,064	935			738	933			890	880		
精密機械	1,898	1,850	149	8.1%	1,623	1,769	171	9.7%	1,820	1,800	115	6.4%
油圧シヨベル	1,796	1,918			1,807	1,745			2,050	1,940		
建設用クレーン	799	810			731	742			700	700		
建設機械	2,595	2,728	171	6.3%	2,537	2,487	61	2.5%	2,750	2,640	115	4.4%
産業機械	884	870	71	8.1%	863	932	85	9.1%	850	770	40	5.2%
船舶	301	329	△ 21	△ 6.4%	293	340	△ 27	△ 8.0%	310	350	0	0.0%
環境・プラント	1,247	1,490	119	8.0%	1,524	1,680	181	10.8%	1,570	1,730	145	8.4%
その他	71	72	24	33.0%	59	60	21	34.5%	50	50	20	39.8%
合計	8,262	8,645	568	6.6%	8,139	8,491	513	6.0%	8,800	8,700	500	5.7%

単位：億円

	全社				油圧シヨベル			
	2019年度通期 (19.4-20.3)		2020年度通期 (20.4-21.3)		2019年度通期 (19.4-20.3)		2020年度通期 (20.4-21.3)	
	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)
北米	1,351	15.6%	1,185	14.0%	442	23.1%	299	17.1%
ヨーロッパ	905	10.5%	780	9.2%	127	6.6%	100	5.7%
アジア(除く 中国)	930	10.8%	953	11.2%	186	9.7%	169	9.7%
中国	870	10.1%	904	10.6%	425	22.2%	373	21.4%
その他	265	3.1%	261	3.1%	103	5.4%	101	5.8%
船舶海外	301	3.5%	288	3.4%				
日本	4,024	46.4%	4,119	48.4%	634	33.0%	704	40.3%
総売上高	8,645	100%	8,491	100%	1,918	100%	1,745	100%

※ 為替レート (ドル) 19年度：¥108 20年度：¥106

# 02

# 「中期経営計画 2023」

# 02 「中期経営計画2019」から「中期経営計画2023」へ

## 「中期経営計画 2019」

### 企業使命の遂行

- 質重視
- 役割に応じた運営
- CSR積極推進

### ＜外部環境の変化＞

- ✓ ESGの急速な進展
- ✓ 米中对立
- ✓ 対中国メーカー対応
- ✓ 情報価値の拡大
- ✓ Covid-19の長期化
- ✓ 他の外的リスク拡大
- ✓ Afterコロナ対応

## 「中期経営計画2023」

### 製品・サービスによる 社会課題解決を通じて、 持続的に企業価値を 拡大する

- 企業価値＋社会価値の拡大
  - ・CSVの推進
  - ・長期の方向性
- 持続的な成長
  - ・強靱な事業体  
= 質と量のバランス
  - ・選択と集中

※ CSV = Creating Shared Value  
事業活動によって財務的企業価値のみならず、社会的企業価値も増大させること。

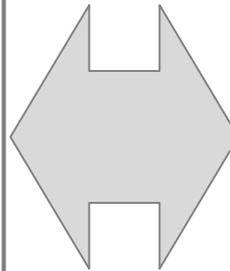
## 02

## 「中期経営計画2023」基本方針

2030年：解決すべき社会課題、住友重機械グループのあるべき姿

持続的な  
住友重機械グループの実現  
(企業価値の拡大)

1. 強靱な事業体の構築
2. 企業価値向上のための変革
3. 働きやすい会社への変革



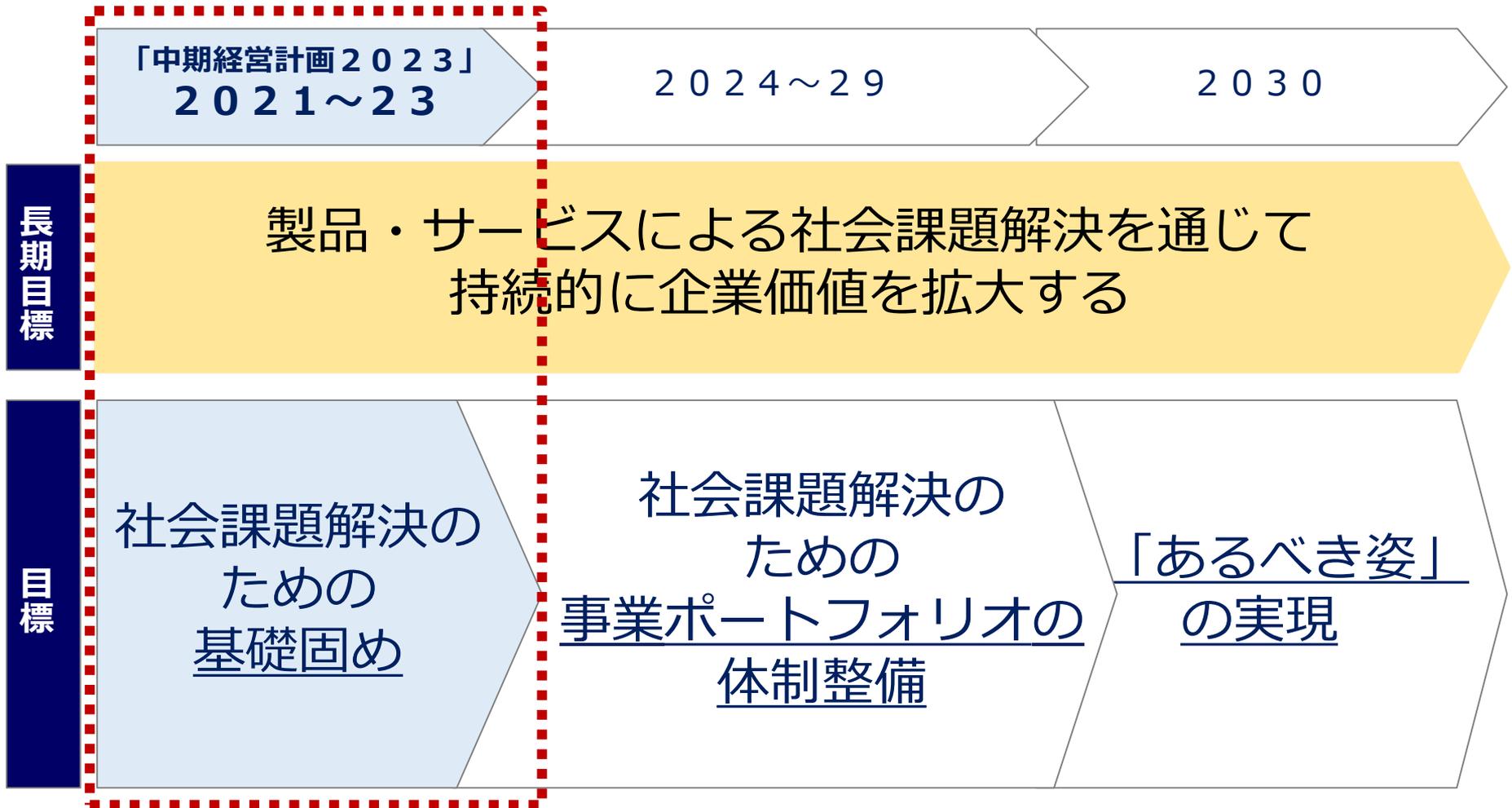
CSV推進による  
社会への貢献  
(社会価値の拡大)

4. 製品・サービスによるSDGsへの貢献
5. 事業を通じた環境負荷の低減

企業価値と社会価値のバランスを図る

## 02

## 「中期経営計画2023」の位置付け：変革へのスタート



## 02

## 「中期経営計画2023」ROIC経営継続

**あらゆるステークホルダーの期待に応え、企業価値を持続的に高めるため、ROIC経営を継続する。**

- ROIC経営を推進し財務パフォーマンスの向上を図る
  - ・ WACC（加重平均資本コスト）に対し十分なスプレッドを確保する
  - ・ 資本効率を向上させ、利益額を増加させる
  
- 成長投資
  - ・ 営業キャッシュ・フローの範囲内で高水準の投資を継続実施する
  
- 株主還元
  - ・ 配当性向30%以上
  - 収益の改善とともに配当性向の段階的な向上を目指す

# 02 「中期経営計画2023」財務目標

## ■ 財務目標

	20年度実績	21年度予想	23年度目標
受注高	8,139億円	8,800億円	10,000億円
売上高	8,491億円	8,700億円	9,700億円
営業利益	513億円	500億円	700億円
営業利益率	6.0%	5.7%	7.2%
ROIC	6.1%	5.6%	7.5%
為替レート(ドル)	¥106 (実績)	¥105	¥100
【参考】ROE	5.6%	5.4%	8.0%

## ■ 投資計画

	設備投資	研究開発費	M&A・新規事業
ポイント	主力事業および 情報化投資に重点	成長に向けた 商品力強化	成長案件発掘
3カ年累計	1,000億円	740億円	400億円

## 02 「中期経営計画2023」策定のポイント

### ① 「企業価値と社会価値のバランス」を目指す

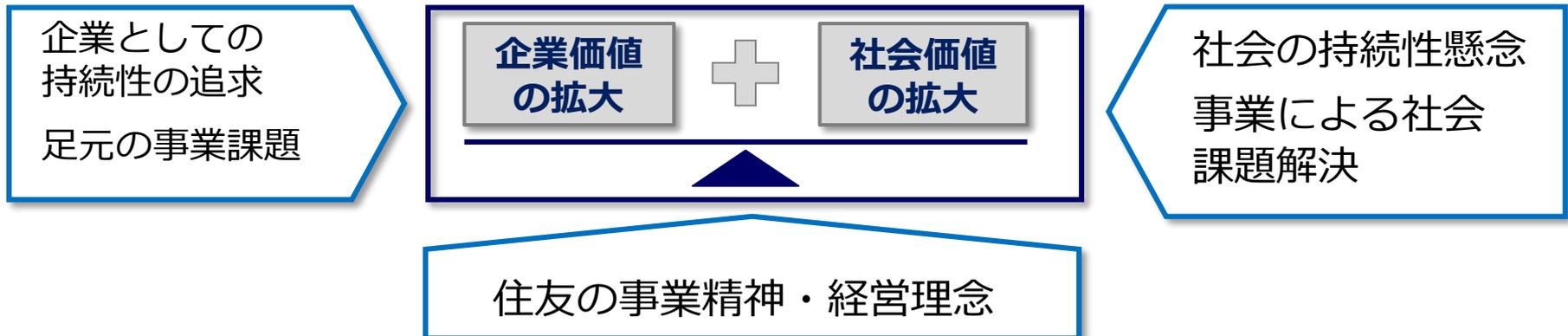
- ✓ 財務価値重視に加え、E S G視点の価値提供も重視する
- ✓ 企業活動による社会課題の解決という考え方（C S V）を採る

### ② 「バックカスティング」により長期の方向付けをする

- ✓ 10年後の社会課題解決という長期目標に対して課題設定する
- ✓ 足元の経営課題と合わせ、「中期経営計画2023」を位置付ける

### ③ 価値の最大化に向け「事業ポートフォリオ」を見直す

- ✓ 社会課題解決に向け、事業の共通性を軸にセグメントを見直す
- ✓ 新たなセグメント内でのシナジーにより新たな成長を企図する



# 02 メガトレンドから導かれる社会課題と当社グループの技術

メガトレンド

✓急速な都市化    ✓気候変動・資源不足    ✓人口構造変化    ✓経済カシフト  
 ✓テクノロジー進化    ✓情報ネットワーク革命

出典：PwC Japan 社ウェブサイト  
 「メガトレンド～5つのメガトレンドと潜在的影響」

解決すべき  
社会課題

労働生産性の向上

エネルギー効率の向上

先端技術の応用による利便性向上

気候変動への対応

インフラ高度化への対応

サーキュラーエコノミーへの挑戦

ウェルビーイングの実現

住友重機械  
グループの  
開発の重点領域

環境・エネルギー

自動化・  
デジタライゼーション

ドライブ  
ソリューション

先端物理応用  
アプリケーション

再生エネルギー  
システム

電動・自律化  
搭載機械

ロボティクス  
アクチュエータ

高度素材加工  
ソリューション

資源再生・新素材  
ソリューション

先端物流  
ソリューション

現状の製品群

動く・運ぶ

形を変える

生活を支える

## 02

## 「中期経営計画2023」における開発の重点領域

重点領域	開発のターゲット
環境	持続可能な産業に必要な環境保全技術開発 (排水・廃棄物処理技術)
エネルギー	脱炭素社会に向けた未来技術開発 (二酸化炭素・廃熱利用技術、 プラント故障診断／運転支援技術)
自動化	移動体やロボット商品の知能化・高度化、 生産技術革新に向けた開発推進
デジタルイ ゼーション	知能化技術・情報基盤技術を磨き上げ、 各種知能を製品・サービスに実装

# 02 サステナビリティ推進への取り組み

中期経営計画2019&2020年度  
(2017~2020)

中期経営計画2023  
(2021~2023)

2024~2030年

「企業価値と社会価値のバランス」を目指し、以下を推進する。

- ✓ 製品・サービスを通じた社会課題の解決
- ✓ 環境・気候変動対応機能の強化
- ✓ TCFDを活用した気候変動リスク・機会の整理と情報開示

## 社会要請の理解

- ・住友重機械グループのCSR全体像確定
- ・全社重要課題の特定
- ・環境開示範囲拡大

## 重要課題の浸透

- ・価値創造ストーリー策定
- ・課題の具体的展開
- ・環境対応機能強化

## 価値創造 ストーリーの発信

社会課題解決を通じた  
住友重機械グループと社会全体の持続可能性の追求

## 02 事業ポートフォリオの見直し

### 従来の中期経営計画：質重視

#### <事業部制で一定の成果>

- ・ 収益責任の明確化
- ・ 既存事業の成長を優先
- ・ 事業部門のROI C経営を徹底

#### <顕在化してきた問題点>

- ・ 経営資源のフラグメンテーション
- ・ 新規事業探索に限界
- ・ 大きな環境変化への対応遅れ

### 「中期経営計画2023」： 価値最大化へのチャレンジ

- ①探索力の強化・追及
  - ・ 社会価値を高める解決課題へのチャレンジ
  - ・ CSVを意識した新規事業の探索を展開
- ②新たな深化力の獲得
  - ・ コア・コンピタンスの結合
  - ・ 規模の効果と人材の融合

#### 第一のステップ：

#### 「公表セグメント」の見直し

- ・ 「選択と集中」への着手
- ・ セグメント内でのシナジーの実現による成長の実現

# 02 新セグメントと事業の探索の方向性



# 02 新セグメントの機種構成

## 【現状の公表セグメント】

セグメント名	製品
機械 コンポーネント	変減速機、モータ、 インバータ
精密機械	プラスチック加工機械、 極低温冷凍機、精密部品、 半導体製造装置、レーザ加工 システム、精密位置決め装置、 工作機械、防衛装備品
建設機械	油圧ショベル、道路機械、 建設用クレーン
産業機械	運搬機械、タービン・ポンプ、 量子機器・加速器、 プレス、産業機器、 フォークリフト
船舶	船舶
環境・ プラント	エネルギー環境装置、 水処理装置、反応容器・化学 装置、食品機械、 産業機器・環境機器
その他	不動産、ソフトウェア

## 【新セグメント】

セグメント名	製品
メカトロニクス	変減速機、モータ、 インバータ、 精密位置決め装置
インダストリアル マシナリー	プラスチック加工機械、 極低温冷凍機、精密部品、 半導体製造装置、 量子機器・加速器、プレス、 産業機器・環境機器、 工作機械、防衛装備品
ロジスティクス & コンストラクション	油圧ショベル、道路機械、 建設用クレーン、運搬機械、 フォークリフト
エネルギー & ライフライン	エネルギー環境装置、 水処理装置、タービン・ポンプ 反応容器・化学装置、 食品機械、船舶
その他	不動産、ソフトウェア

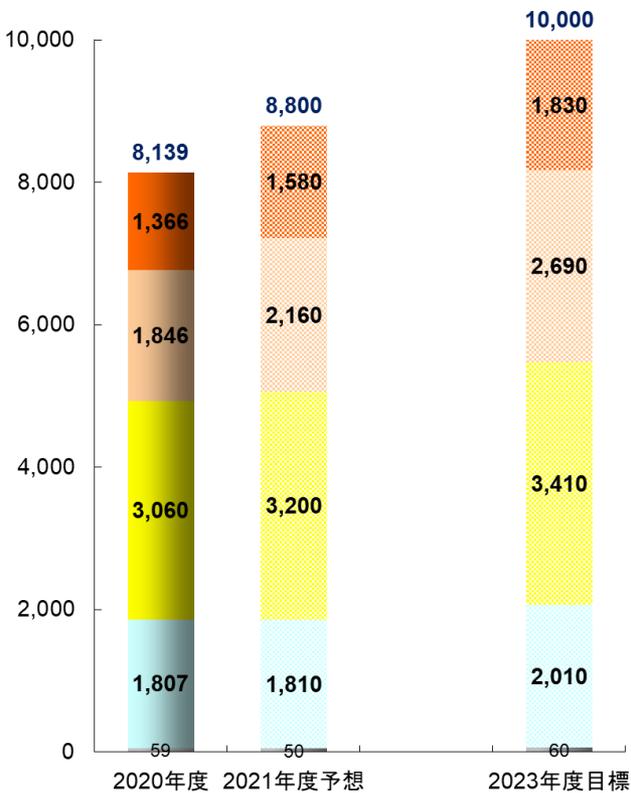
## 02

## 新セグメントによる受注・売上・営業利益推移

■ メカトロニクス
 ■ インダストリアル  
マシナリー
 ■ ロジスティクス  
& コンストラクション
 ■ エネルギー  
& ライフライン
 ■ その他

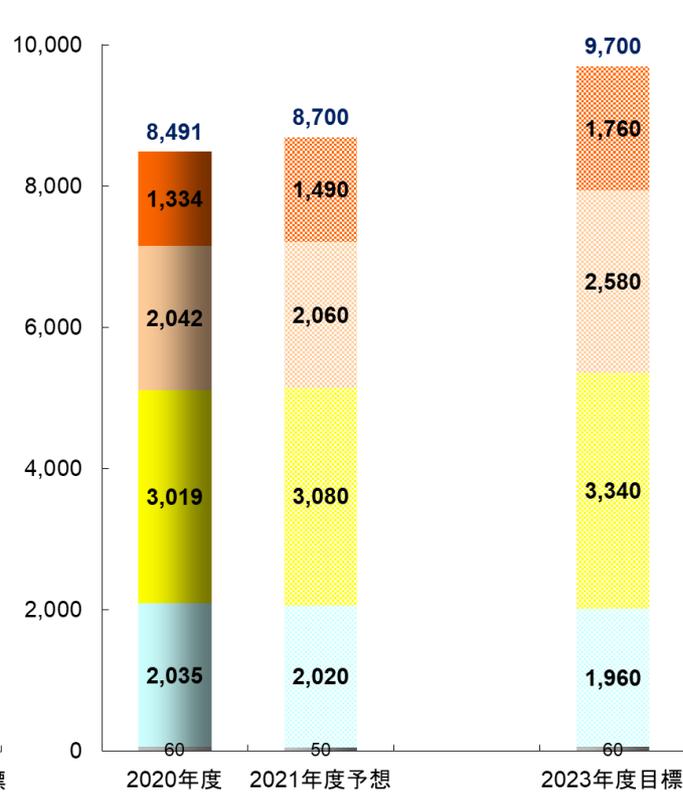
## 受注高

億円



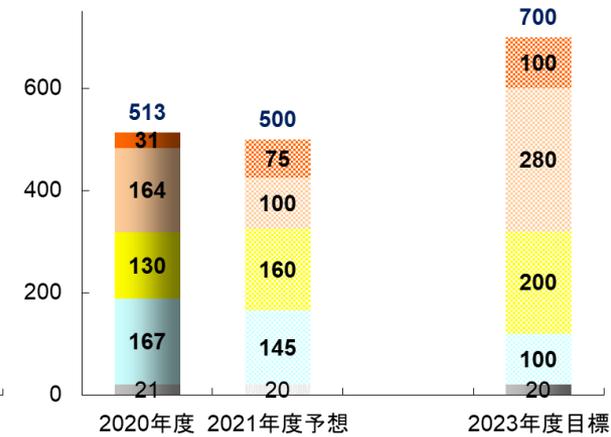
## 売上高

億円



## 営業利益

億円



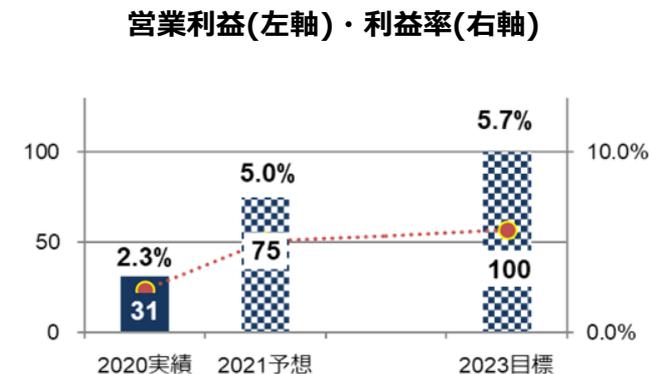
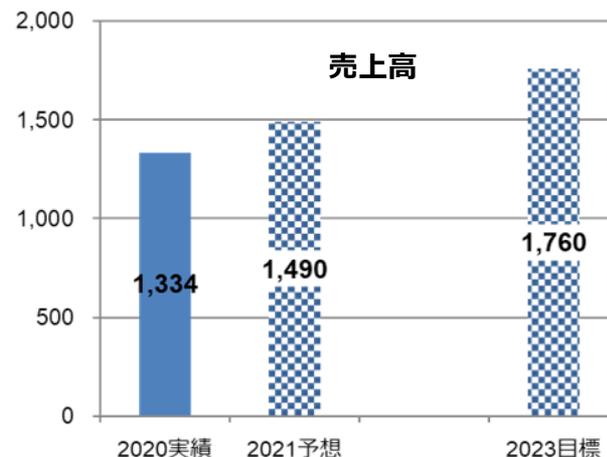
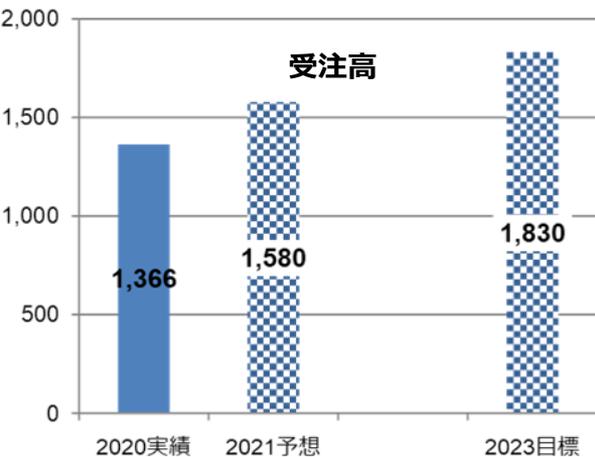
# 02 メカトロクス セグメント

## 2021年度の動向

コロナ禍からの回復により全世界的に市況好転。  
主力の変減速機の需要増加により、受注、売上ともに前年比増加の見通し。

## 2023年度までの方向性

- ✓ モーションコントロールデバイス事業の成長促進
- ✓ ロボティクス要素を入れたドライブソリューション事業の立ち上げ
- ✓ 状態監視システムによる「サービス変革」



# 02 インダストリアル マシナリー セグメント

## 2021年度の動向

### <プラスチック加工機械>

中国の電気電子関連や欧米の需要が引き続き堅調に推移することに加え、国内の需要も回復を見込み、受注、売上ともに前年比増加の見通し。

### <その他>

全般的に市況は回復基調で、受注は前年比増加するものの、前年の受注が低調であった半導体関連を中心に売上は前年減少の見通し。

## 2023年度までの方向性

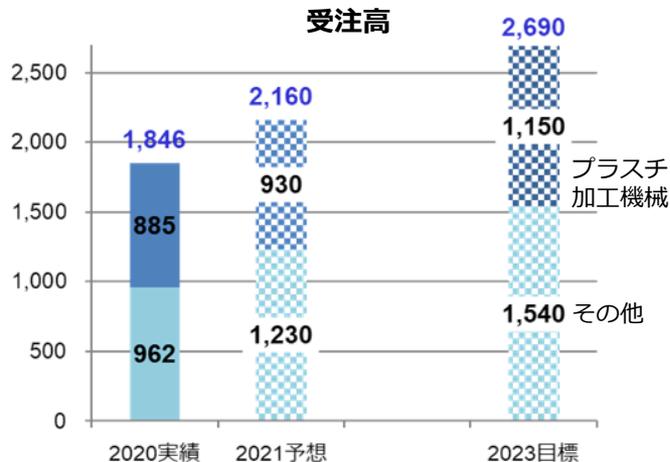
### <プラスチック加工機械>

- ✓ 環境対応樹脂、リサイクル樹脂対応等の環境対応技術開発推進
- ✓ グローバル連携と地域別戦略の強化推進

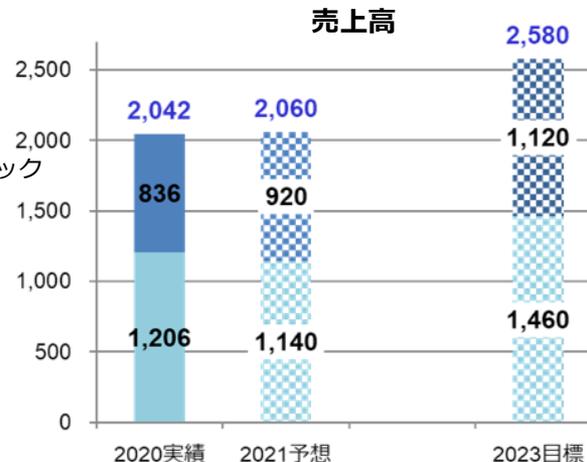
### <その他>

- ✓ 特定半導体製造装置領域の競争優位確立
- ✓ 電動化に伴う自動車関連事業の拡大
- ✓ 先進医療分野での事業成長

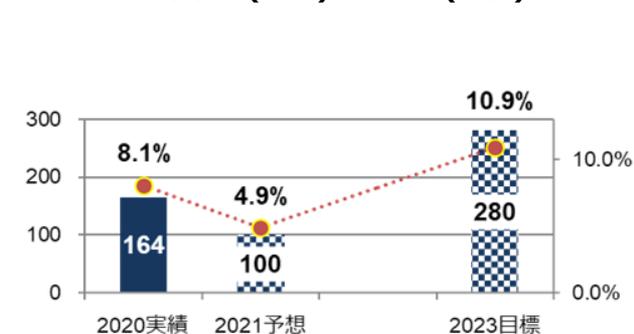
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



# 02 ロジスティクス&コンストラクション セグメント

## 2021年度の動向

### <油圧ショベル>

国内、中国の市況が引き続き堅調に推移することに加え、北米の回復も見込み、受注、売上ともに前年比増加の見通し。

### <その他>

建設用クレーンは、市況回復傾向も時間がかかり、受注、売上ともに前年比微増。

運搬機械事業も、受注減に加え前年の受注減の影響により売上も減少の見通し。

## 2023年度までの方向性

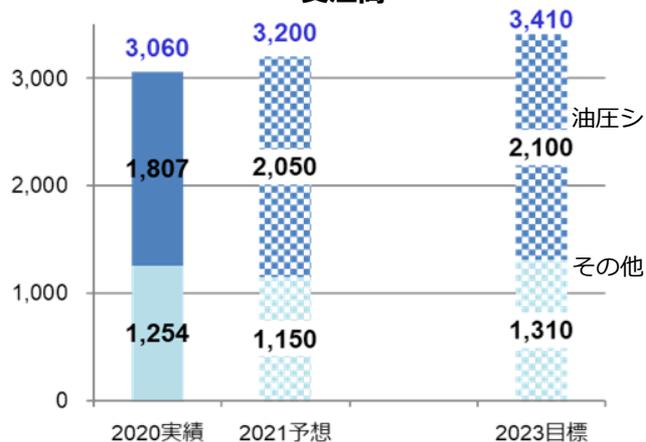
### <油圧ショベル>

- ✓ 電動ショベル開発
- ✓ ICT建機の高度化、導入拡大
- ✓ 高次排ガス対応
- ✓ サービス、部品事業の拡大

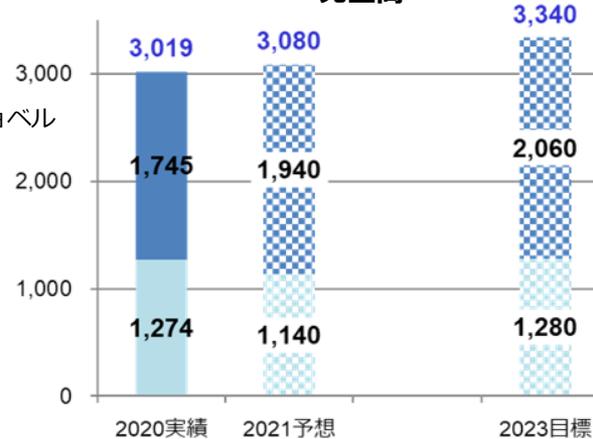
### <その他>

- ✓ 港湾クレーンの自動化、遠隔操作
- ✓ 建設用クレーンの電動化、高次排ガス対応
- ✓ グローバル対応

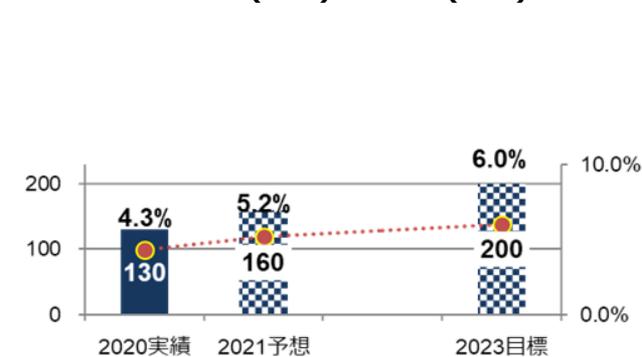
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



# 02 エネルギー&ライフライン セグメント

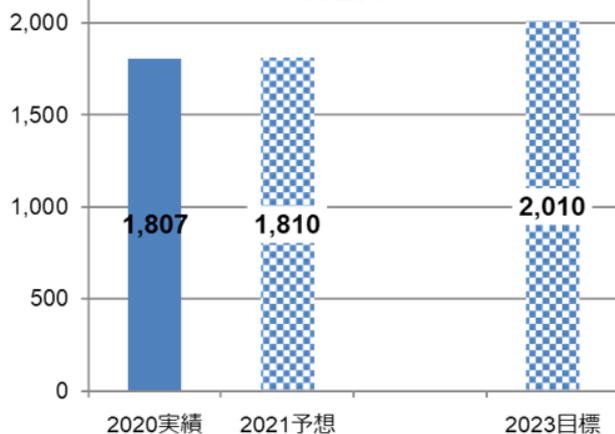
## 2021年度の動向

エネルギープラント事業は、主に国内でバイオマス発電設備の大型案件が前年比減少することから受注は減少し、受注残があることから売上は増加する見通し。  
 その他事業は概ね市況回復へ向かい受注増加の見通しも、国内ごみ焼却事業の事業譲渡もあり、売上は減少する見通し。

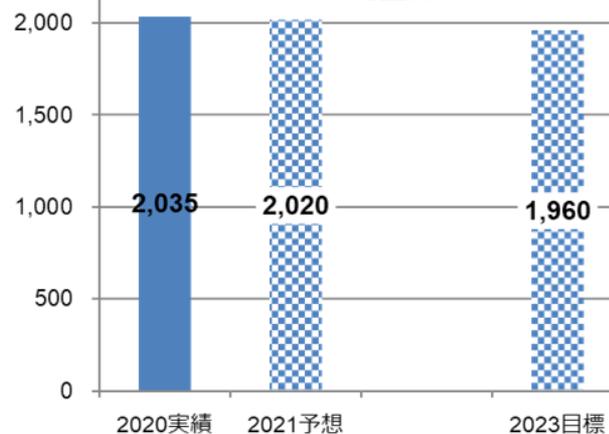
## 2023年度までの方向性

- ✓ 液化空気エネルギー貯蔵（L A E S）等の再生エネルギー市場での事業化推進
- ✓ バイオマスなどによる地域別事業展開
- ✓ 排水廃液の再資源化ビジネスの展開
- ✓ I o T、I C T要素の実装による運転管理の省人化
- ✓ 脱炭素を見据えバイオリクター展開
- ✓ グローバルでのサービス事業強化

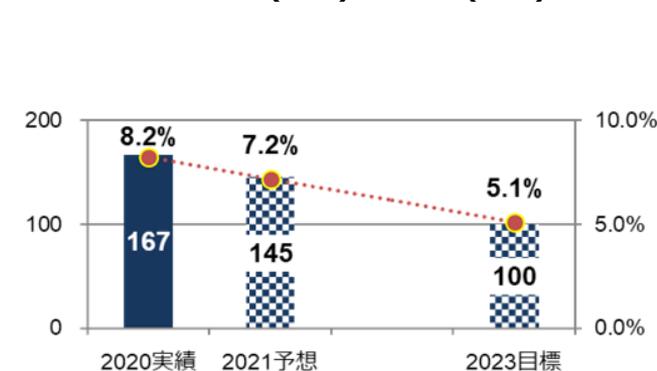
受注高



売上高



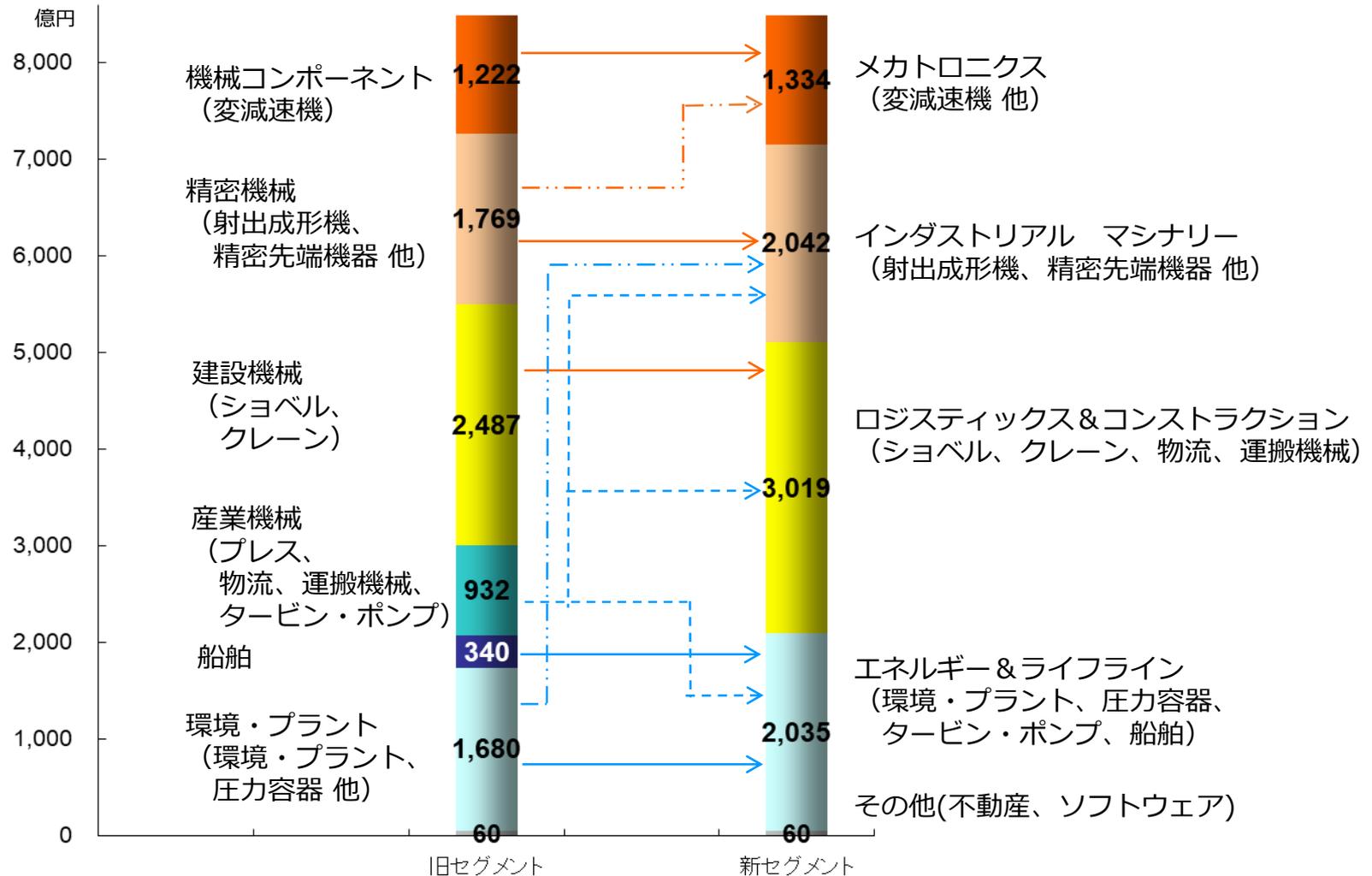
営業利益(左軸)・利益率(右軸)



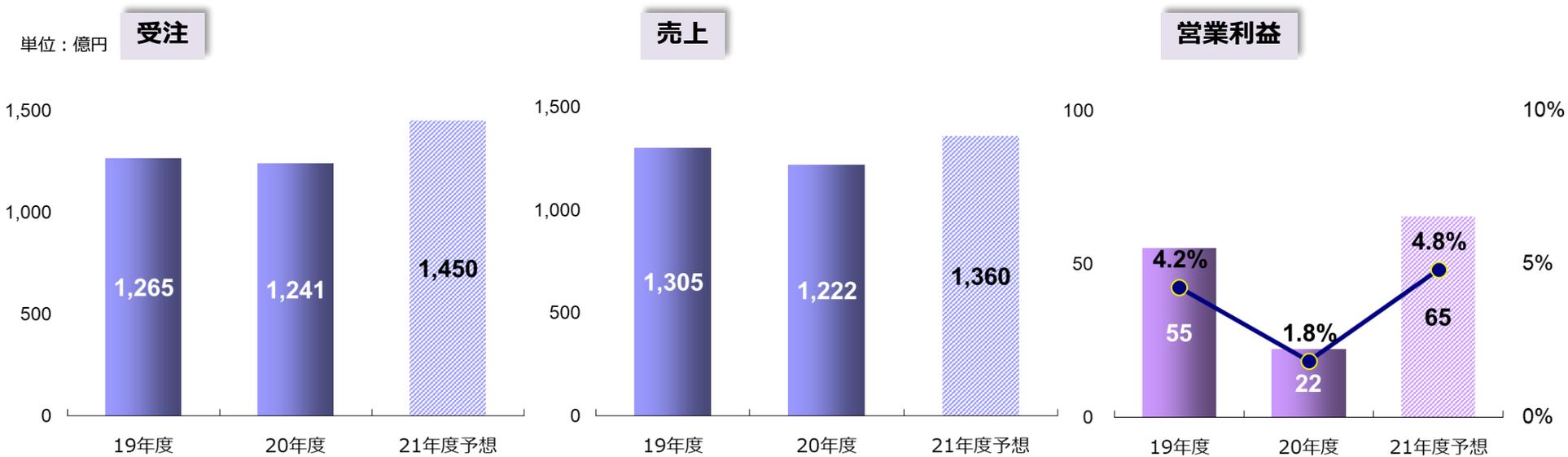


# セグメント組み換えについて

## 2020年度売上高（8,491億円）



**20年度：** 全世界的に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、  
受注、売上、営業利益ともに減少。





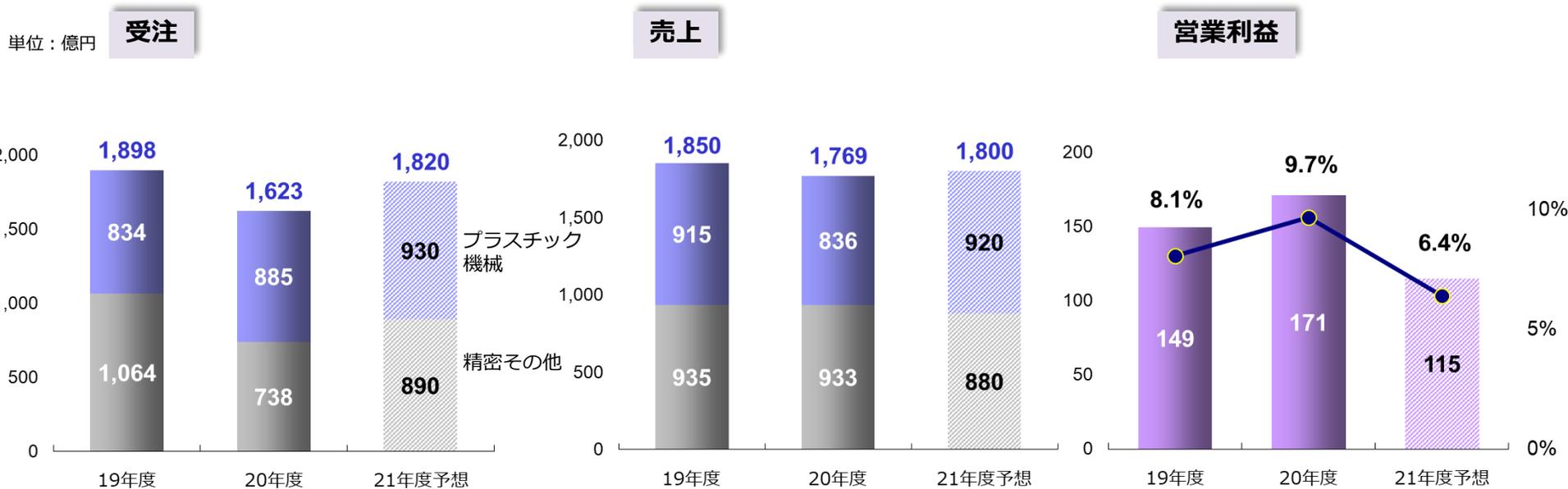
## <旧セグメント> 精密機械

### <プラスチック機械>

**20年度：** 中国の電気電子関連の需要の回復や欧米での需要の増加により受注は増加したものの、受注から売上までリードタイムがあることから売上は減少。一方、機種構成が変化したことから営業利益は増加。

### <精密その他>

**20年度：** 半導体関連の需要が調整局面で受注は減少したものの、受注残があったことから売上は前年並みとなり営業利益は増加。





## <旧セグメント> 建設機械

### <油圧ショベル>

**20年度：** 国内市場が堅調であったことや北米地区の需要が回復してきたことから受注は増加したものの、受注から売上までリードタイムがあることから売上は減少、売上の減少に加え品質コストの負担もあり営業利益も減少。

### <建設用クレーン>

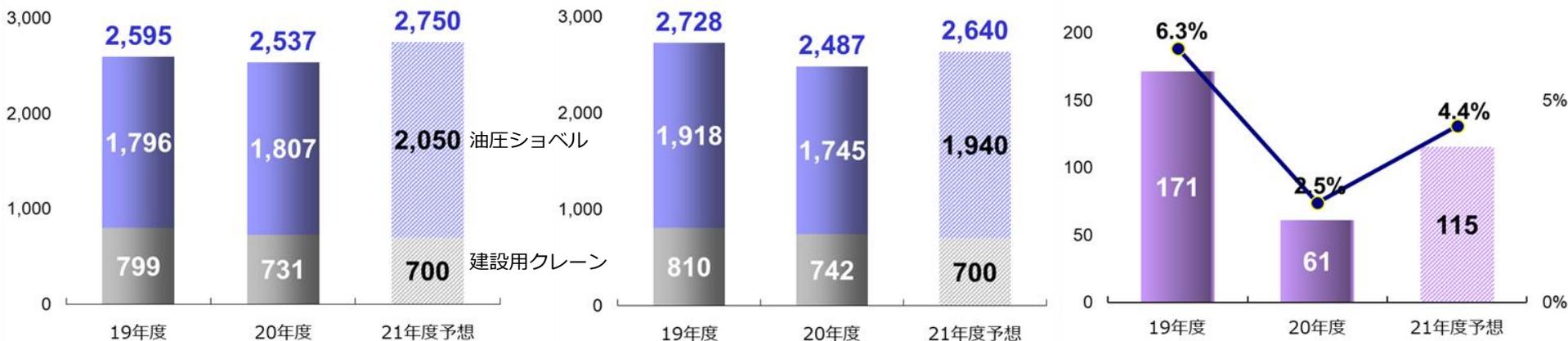
**20年度：** 北米地区の需要が回復してきたものの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け需要は全般的に減少し、受注、売上、営業利益ともに減少。

単位：億円

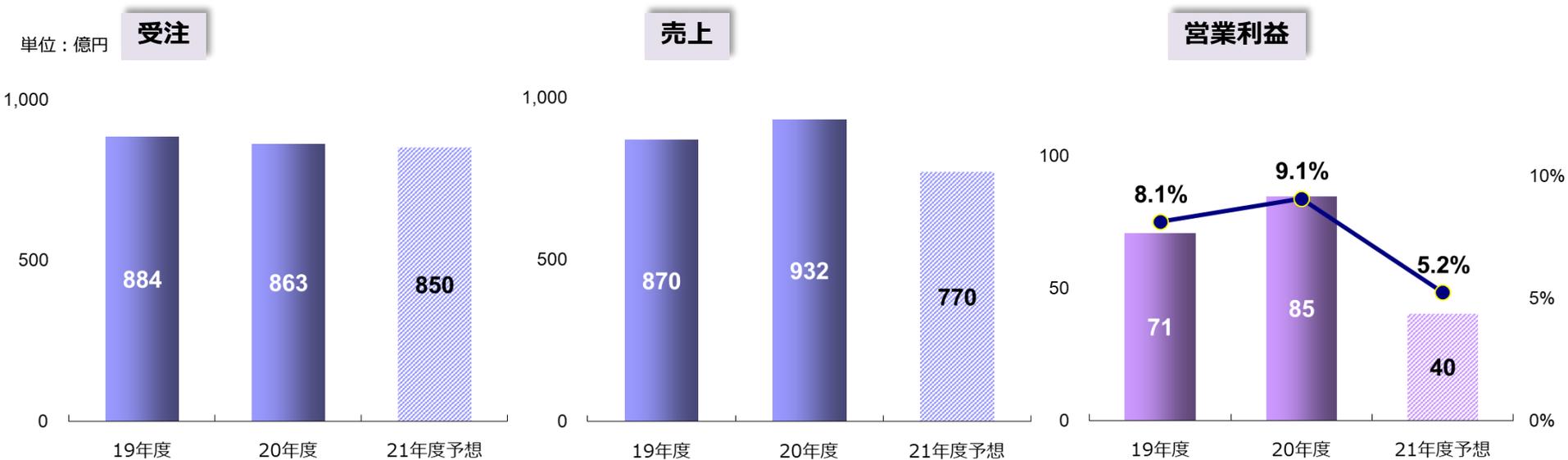
受注

売上

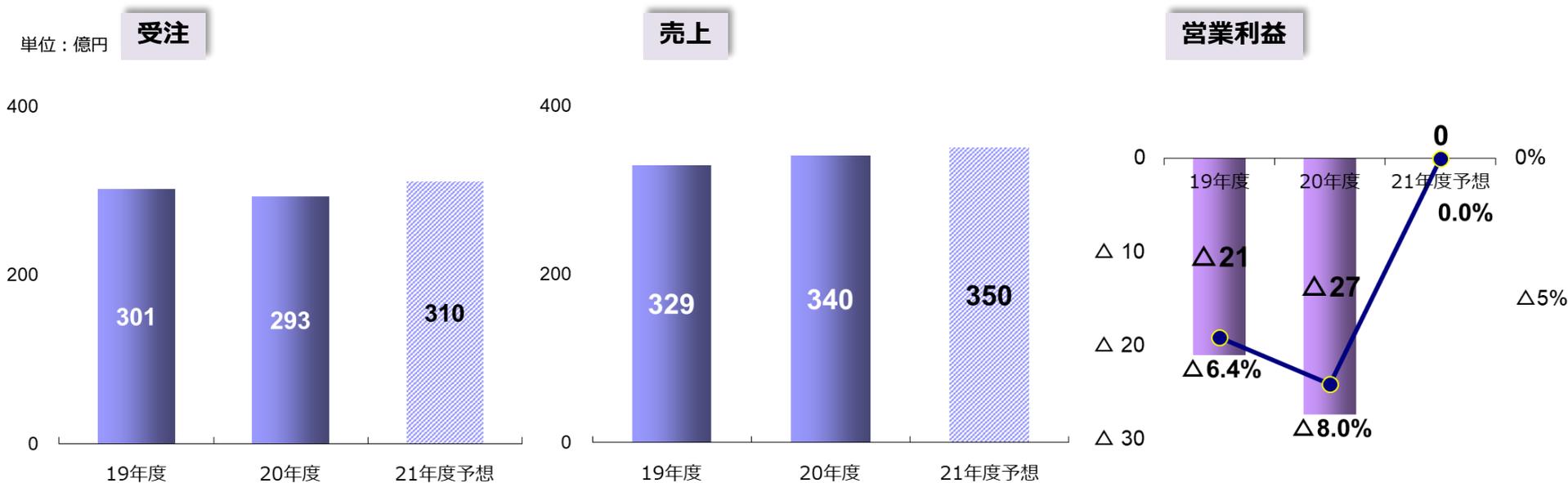
営業利益



**20年度：** 運搬機械事業は、電力・港湾向けの需要が堅調であったことや物流システムも堅調であったことから受注は増加し、受注残があったことから売上、営業利益も増加。  
 その他産業機械事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、受注、売上、営業利益ともに減少。



**20年度：** 船舶市況は引き続き低迷、当期は前期と同じ3隻の新造船を受注。引き渡しは前期と同じ4隻で、売上は増加したものの前年に引き続き営業損失。



**20年度：** エネルギープラント事業は、国内や欧州でバイオマス発電設備の大型案件を受注したことなどから受注は増加し、主に国内で受注残があったことから売上、営業利益ともに増加。  
 水処理プラント事業は、排水処理装置の案件が前期に比べ減少したことなどから受注は減少したものの、受注残があったことから売上、営業利益は増加。





# 住友重機械工業株式会社

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。